

【いなくま通信】

肘内障

バックナンバー

今回は肘内障についてご紹介します。

まず、肘内障とは肘の外側にある靭帯と骨が外れかけている状態で肘の靭帯が発達していない1～6歳児に多く発生する症状です。主な原因として、親御さんが肘を強く引っ張ってしまった時や転んだ際に手をついたり、肘をぶつけてしまった際に多く発生します。また遊んでいる最中など、何が原因となったのか分からない場合もあります。肘内障を起こすと肘を動かせなくなるので、片腕をだらんと下げた状態になりますが、安静にしていると強い痛みは感じないことが多いとされており、骨折の時のような激痛や腫れは生じません。診断としては症状のきっかけ、肘の痛み、動きを確認します。確認した後に肘内障の可能性が高く、骨折などが起きていると考えにくい場合、整復術を施します。整復が成功すると関節がはまるため「万歳」等をしてもらい、肘が動かせるようになったか確認をします。原因が転んだり、ぶつけた場合は骨折がないか確認の為、X線検査が検討されます。

一度、肘内障を起こしてしまうとその後も繰り返してしまうことがあります。成長に従って発達するため、年齢と共に発生しなくなります。

肘内障を予防するためにはお子様の手をなるべく引っ張らない様に体を持ってあげるようにしましょう。また肘内障という疾患を保護者の方が知っておくことも予防に繋がるのではないかと考えられます。急性的な肘の痛みや動かなくなってしまった場合はお近くの整形外科を受診して頂くことをお勧めいたします。

- 2017/12号 [肺炎球菌感染症](#)
- 2017/11号 [鷺足炎](#)
- 2017/10号 [線維筋痛症](#)
- 2017/9号 [鳩胸](#)
- 2018/8号 [肘内障](#)
- 2018/7号 [下肢静脈瘤](#)
- 2018/6号 [肘部管症候群](#)
- 2018/5号 [虫垂炎\(盲腸\)](#)
- 2018/4号 [副鼻腔炎\(蓄膿症\)](#)
- 2018/3号 [足根洞症候群](#)
- 2018/2号 [ものもらい](#)
- 2018/1号 [ド・ケルバン病](#)
- [過去のものはこちらから](#)

